

日本中東学会第13回公開講演会「日本のなかの中東、世界のなかの中東」

パネル・ディスカッション「世界史教育における中東・イスラーム」

「どこまでできたか中東・イスラーム認識—私の世界史学習遍歴—」

報告レジュメ

二谷貞夫

(上越教育大学元教授)

1 はじめに では、話す内容の結論を3点にしておく

この4月ですが、歴史教育者協議会が編集した『知っておきたい中東Ⅰ、Ⅱ』(青木書店)が出版されました。1冊目は、43のテーマで、1:古代文明の遺跡をたずねて2:生きつづける多様な宗教3:ローマ帝国との攻防4:イスラーム教の成立とその内容5:イスラーム社会の現実6:拡大するアラブ社会7:華やかな文化の中心になったイラン8:大帝国を築いたトルコ人の活躍9:ヨーロッパ人の進出に対する抵抗と改革で、西アジア・北アフリカを中心とあいた前近代史と最後にヨーロッパ近代との関係で、オスマン帝国の改革、ワッハーブ運動、エジプトの近代化、アフガニスタンの抵抗の4つで終わっている。2冊目は、中東近現代史で、42のテーマが1:列強の侵略に立ち向かう2:独立と改革の戦い、3:中東が生んだ現代の文化人4:分裂と対立の悲劇5:イスラーム教の旗のもとに6:豊かな社会をめざして7:パレスティナ紛争8:国際社会のなかでの争点9:日本と中東であり、最後に対話からはじまる相互理解というタイトルで、日本・イスラエル・パレスチナ学生会議のとりくみが書かれて締めくくられている。パネルディスカッションのテーマとの関連でこの2冊をとらえてみると、世界史の授業に取り組む相応しい教材研究の素材を提供している。このパネリストの一人である小川さんも執筆者の一人ですから、高校現場の先生方と研究者の方々が高校現場の実践に活用できる教材の視点から豊富な中東・イスラーム認識をつくりだす素材が投げかけられていると思います。

そこでこの本の合評会をすればいいのかもしれませんが、到達点の一つとして捉えながら、ここではこれからの世界史教育と中東イスラーム認識にかかわって、世界史学習と教育実践という立場で議論を進めるための課題提起になる材料を提供してみたいと思います。話題提供の前提は、私自身の体験ですので、サブタイトルにあるように、世界史学習遍歴です。

話題として大きく2つに分け、1つは、世界史とはに拘わって、世界史教育・世界史学習でめざしてきたものについてあります。もう一つは、そのなかで、中東・イスラームをどう捉えて教育実践に取り組んできたかです。後者については、さらにいくつかに分けて話題提供に成ればと思います。

2. どんな世界史学習でめざしてきたか 6つのキーワード

キー・ワード1 《世界とのつきあいかたとしての世界史学習》

田中陽児「実態としての世界史が確固としてあり、人はそれをしだいに解き明かしていくというのではなく、むしろ、自分をとりまく世界をどう総括するかという課題」, (1969)

∴ 歴史を学ぶもの自身が歴史と向き合ったとき、はじめて歴史の女神クリオは微笑んでくれる。

キー・ワード2 《19世紀的ヨーロッパ中心史観批判・脱却・克服》

日・東・西三分科研究システム批判、

西洋 VS 東洋の二項対立思考批判(板垣雄三「現代アジアと日本」)、

日本的オリエンタリズム (抑圧的な他者理解の様式 E.Said,1978) 批判

「ヨーロッパによる歴史と文化の収奪を吟味する」

石原保徳『世界史への道—ヨーロッパ的世界史像再考』(1999)

キー・ワード3 《人類史と世界史の区分と相即的把握》

①: 従来的人类史=単一普遍的人类の発展・進歩の歴史認識

②: 新しい人類史=自然と人間との関係を考える歴史認識

人間の醜悪さとそれに由来する人類の絶滅を不可避のものとして

追及する。(上原、1975)

③: 現代認識としての世界史=現代の課題・矛盾の追及

必然性への挑戦として、人間の自由と価値を回復しようとする、大衆自身の絶体絶命の願業。

〈自己告白としての平和論の構築〉(上原、1975)

∴現代の諸矛盾を解決するどころか再生産してしまう①のような史観を否定。エコロジー、核の

脅威などの危険性の増大の中で、②と③の相即的把握を求める。

キー・ワード4 《世界史像の自主的形成》

A: 世界史意識の目覚め

Ex 「世界史をどう見るか—教師と生徒の世界史意識」(東洋経済新報社『世界史講座』1956)

実践的・戦略的な世界史の再構築

Ex 社会構成体と民衆闘争を強調 (三一書房『世界歴史講座』)

B: 世界史の発見: 課題化的認識と法則的認識

上原専禄(1964)

: 地域世界が複合的に構成する構造全体・動態全体としての世界史

: 日本国民の生活意識に根ざした課題認識に迫る自主的な世界史像の形成

遠山茂樹(1965)

: 世界史は発展段階と異にする諸民族の歴史の構造的複合体である

: 帝国主義の崩壊と社会主義の前進を基調とする現代において、日本の当面する課題を自覚させることを目標に、社会発展の法則性重視による世界認識を追及する

∴ 欧米中心「近代化論的」世界史の克服を志向する点では共通するが、実践では、本来補完的に展開すべき課題化的認識(問題史)と法則的認識(発展史)とが、分離してしまった。

∴ 世界史学が歴史教育の分野からの要求によって形成されつつあることに意義。

同時に、理念的な「世界史の基本法則」からの脱却=発展段階論批判

キー・ワード5 《脱・エスノセントリズム》

支配者根性、植民地所有国の精神からの脱却

閉じた内（日本）と外（外国）との交渉・関係史からの脱却

「同時代的、全面的把握」

：13世紀世界史起点論とその構造、

：ユーラフロアジア世界とアメリコ・オセアニア世界との一体化とは

：鈴木 亮「ライトのあたらないところにも歴史がある」（1960）

：狩野政直『「鳥島」は入っているか』（1988）

* 「中心—周辺」「周縁」理論：大江健三郎ノーベル賞受賞記念講演

「世界の周縁にあるものとして、そこから展望しうる、人類の全体の癒しと和解に、どのようにディーセントかつ、ユマニスト的な貢献がなしうるかを探りたいと願っている。」どう評価するか

：吉村徳蔵「日本史と世界史の結びつき」（1957）

たてわり—地域史の集合としての世界史

よこわり— 類型社会別世界史 古代・中世・近代の同時代的配列

同時代全地域的世界史 「人類のあゆみ」としての世界史

：吉田悟郎 HP ブナ林だより

■ 今 ■ 今世界史の野蛮化・地獄化に日々抵抗している前衛として、

そして別の平和・独立・共存の世界を創ろうと苦闘している前線として

●パレスチナ、そしてイラク・アフガンなどの人々は……

：国際シンポジウムの開催

例えば 1985～1999年 4回の比較史・比較歴史教育研究会主催の「東アジア歴史教育シンポジウム」

キー・ワード6 《地域・日本・世界の統一的把握をめざす世界史学習》

：世界史学習としてのフィールドワーク

笠原十九司「日比谷公園にさぐる七つの世界」（1977）

杉原 達「大阪・今里からの世界史」（1994）

地域⇔日本⇔世界 往復運動的認識

地域・日本・世界を貫く世界史教室

地域を掘り下げ調べ学んでいくなかで、埋もれた日本・世界を発見し、

日本・世界を新しく捉えなおす（ 歴史表象分析からの歴史認識）

吉田悟郎「足で学ぶ世界史学習」

鳥山孟郎「ものを生かした授業」

「日本」から「日域」（吉田,1985）

高校世界史必修化で日本史と世界史の隔絶ふかまり、世界史学習の空洞化・危機

もの見事に世界史未履修問題となつて、およそ世界史認識・世界史意識のないことが明らかになった。

◎ 世界史とは、つぎの内の説明で、あなたの考え方にもっとも近いのはどれか一つを選んで、丸印をつけてください。

1. 定まった形の世界史があつて、学んでいくとそこに到達できるもの。
2. 定型の世界史などはなく、教科書は世界史像の一例にすぎない。
3. 各国に自国史があるように、世界史は、その数だけあるといてよい。
4. 世界と向き合つて、歴史を総括するとき、はじめて世界史は成立する。

◎ 世界史の構成として、次の説明のなかであなたの考え方にもっとも近いのはどれか、一つを選んで、丸印をつけてください。

1. 人類の誕生からはじまる人類社会の進歩・発展を振り返る世界史。
2. 現代世界の諸課題解決の歴史的展開を明らかにする世界史。
3. 世界の諸地域・諸民族の歴史的展開が描き出すモザイク状の世界史。
4. 民衆・民族の共存・連帯のあゆみを明らかにする世界史。

3 中東・イスラーム認識を深めるために

i 中東・イスラーム学習事始め

①インド洋世界史のこと

★「テロ特措法」によるインド洋上での海上自衛隊艦船による給油活動

1976年1～3月 インド洋航海(寄港地シンガポール、コロンボ、ボンベイ、クエート、カラチ)

1977年10月 インド洋世界の公開授業

バスコダガマのインド洋航海の航跡

水先案内人イブン・マージドのこと

門田修『ダウ船同乗記』・家島彦一「インド洋世界とダウ」(『季刊民族学』)

② スライドづくり「イスラーム文化圏—その形成と展開」(学研スライド)1978年

OHP参照 特色 Iの風土と人々、IVの千夜一夜物語の世界、

VIIイスラーム・モンゴル・十字軍

③ シンポジウム「パレスチナ・アラブ・中東を考える」1982年11月

日本大学「教育のなかで」を報告

板垣雄三・吉田悟郎編『パレスチナ人とユダヤ人—日本から中東をみる視点』

(三省堂、1984)

ii シルクロード学習—と中東イスラーム認識

日本のシルクロードブームのなかで、パーミアン大仏の破壊の受け止めに対して、イランの映画監督モフセン・マフマルバフの本『アフガニスタンの仏像は破壊されたのではない、恥辱のあまり崩れ落ちたのだ』をかみ締めることもその一つ

シルクロード学習の目的=ユーラフアジア世界史を構想するために

事例Ⅰ Ex.中学校の歴史教科書記述

「長安では、さまざまな外国人の姿がみられた。それとともに、ササン朝ペルシア・インドなどの文化も流れ込み、キリスト教の寺院さえ建てられた。」

「飛鳥文化は、中国の南北朝の文化をはじめ、ギリシア・ササン朝ペルシア・インドなどの影響をうけているが、そのおかげは、法隆寺の建築や彫刻などに残されている。」

「東大寺の倉であった正倉院宝庫には、聖武天皇の使っていた品々や、当時の文書などが残っている。その中には、唐をはじめ、ササン朝ペルシア・イスラム・インドなどの美術の流れをくむものがあり、世界の文化とのつながりや、はなやかな貴族の生活のようすが、うかがわれる。」

事例Ⅱ 李密翳というペルシア人が天平時代に日本列島にきたかどうか。さらに、イスラム教やゾロアスター教など伝播していないのか。

聖武天皇(天平八年11月3日)『続日本紀』

「天皇は朝殿に臨御し、詔して遣唐副使・従五位上の中臣朝臣名代に従四位下を授けた。死没した判官・正六位上の田口朝臣養年富・紀朝臣馬主にはそれぞれ従五位下を贈り、准判官・従七位下の大伴宿禰名・唐人の皇甫東朝・ペルシア人の李密翳らにはそれぞれの身分に応じて位階を授けた」(講談社学術文庫上、p. 357)

事例Ⅲ 高野山の大秦景教流行碑

大秦景教流行中国碑: 西安 1623-25年の間、発掘された。現在は碑林に模造がある。

漢字 1756 字、シリア語 70 語。

石碑建造年: 唐の建中 2 年 (781 年) 碑文作者ペルシア人主教アダム (景浄)

事業出資者 伝道者ミリスの子、トカラ (吐火羅) 国出身の軍人: イスドプシト (伊斯)、

碑側面には、128 人の同派の主教、司祭の名がある。

事例Ⅳ 8世紀から12世紀のシルクロードは、どんな役割を果たしたか。

- ① 国際都市長安とバグダッドとは「千夜一夜物語」イスラム商人が海陸に活躍
- ② トルコ化とイスラム化 (アーバニズムと近代性) がシルクロードを介して進む。
 - * 鉄勒、突厥、ウイグル、セルジューク、オスマンと西進
 - * アラブの東進・ムスリム商人の活躍でイスラム化が東へ

OHP:13 地域世界論

事例Ⅴ 13世紀世界史成立 モンゴル・十字軍・ジハード パックス・タターリカ

マルコ=ポーロ『東方見聞録』とラバン=ソーマ「西方見聞録」

インド洋世界によって成り立った「海のシルクロード」

イブンバツータの旅、鄭和の大遠征とバスコ・ダ・ガマの侵入

OHP(板垣雄三「イスラムと民族・宗教」:世界の中東化がすすむより)

4 まとめにかえて:

◎中東vs世界・日本・自分という世界認識の方法—世界史の野蛮化・地獄化に抵抗して

◎ “理由を問わずに、なぜ、アメリカはテロ報復戦争をするのか。イスラームの問題性に気づかぬ私たちは、世界をしっかりとらえているのか。欧米偏重の見方に偏りすぎていないのか”

世界史未履修問題とは そもそも生活感覚に世界が無いから

Ex. いまだにユダヤ人を人種と見ていないか。ユダヤ教を民族宗教と見ていないか

OHP: ユダヤ教徒の世界分布、ムスリムの広がり

Ex. ユダヤ財閥支援のアンネ財団: 日本での「アンネの日記」ベストセラー=「ユダヤ人迫害」=ホロコースト・ナチス否定=イスラエル建国是認=シオニズム是認という短絡した認識構造に落ち込んでいないか。

◎吉田悟郎さんの「ブナ林便り」より

「イラク<復興支援>という隠れ蓑で、日本はイラク戦争に参加してしまった
これは世界史の野蛮化・地獄化に加勢する道、日本自体も野蛮化・地獄化する道
近隣諸国はじめイラク・アラブ・中東の民を敵にまわし <世界の孤児>を選ぶ道
日本を愛し、世界の民を友とし、別のよりよい世界を望むものには
いっそうの<日々是抵抗>が期待されるとき
対米従属の危険性も日に明らかになりつつある

21世紀日本国の歩みを 日米ともだおれ に導いてはならない」

◎OHP 「I WANT YOU TO INVADE IRAQ」02.9.25 NYタイムズの見聞広告

パレスチナ問題 vs イスラエル問題 は、アフガン・イラク問題vsアメリカ問題

◎中東が世界史の本流をつくってきたこと

捉え返し仮説:近代はイスラーム成立にはじまる。

この意味は、ヨーロッパ中心主義を相対化するための言説ではなく、イスラーム世界が文字通りの中心であったこと。

ヨーロッパ中心主義にかわって、イスラーム中心主義を主張しているに過ぎないのか。

世界史におけるイスラーム世界の中心性を先ず明確に認識すべきだということを、最初に知っておくべきだということ。